

ブラジルの利下げについて

2012年10月11日

10月10日、ブラジル中央銀行は、同国の政策金利(SELIC(翌日物金利))を0.25%引き下げ、7.25%にすることを発表しました。これにより、ブラジルの政策金利は昨年8月に利下げに転じて以降10回、合計で5.25%の引き下げとなり、これまでの過去最低水準を更新しました。

《ブラジル中央銀行が追加利下げ発表》

今回の政策金利引き下げの背景には、国内景気の下振れ懸念を払拭することが挙げられます。

個人消費は比較的良好ですが、製造業や輸出関連の経済指標は鈍化しています。

ブラジルの主要な輸出先となる欧州・中国経済の先行きの不透明感などから国内景気の下振れ懸念も残るため、今回、利下げに踏み切ったと思われます。

《今後の見通し》

●景気見通し

ブラジルでは、比較的良好な個人消費だけでなく、鉱工業生産が前月比では既にプラスに転換したことや、GDP成長率の先行指標となる月次の経済活動指数が改善を続けていることなど、これまでの利下げの効果が浸透しつつあります。ただ外部環境の不透明感が増していることもあり、回復は緩やかなペースにとどまるとみられます。

●政策金利見通し

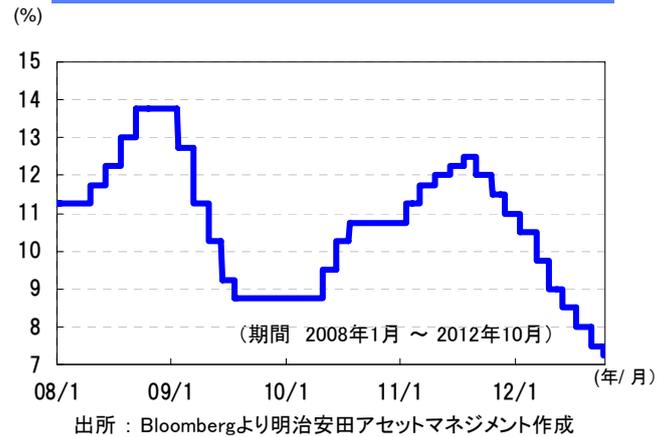
今回の利下げの決定は全会一致ではなく、賛成5に対し、反対(金利据置き)3になるなど、利下げの実施に関しては委員の間でも意見が分かれました。

現在の7.25%の政策金利は過去最低の水準にあることや、金利の引き下げによるインフレリスクが警戒され始めたことを踏まえると、今後の利下げ余地は限定的と考えられます。

●為替

政府・中央銀行は、輸出産業への配慮から自国通貨高抑制の姿勢をみせています。その一方で追加利下げの可能性が低くなっていることや同国金利が相対的に高い水準にあること、資源国としての優位性があることなどから、ブラジルレアルは底堅く推移すると考えています。

《ブラジルの政策金利》



《ブラジルレアルの対円推移》



●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。